

サイエンスパークの出展結果

長島正幸

今年のサイエンスパークは、8月4日と5日の2日間開催され、当試験場の出展日の5日に内水面資源部の皆さんと参加してきましたので、概要を報告します。

当日は、例年のとおりサッポロファクトリーのホール会場、左手奥のスペースにブルーシートを敷き、魚の入ったプール2面を用意しました。10時の会場と同時に、ドゥーと子ども達が入場、タッチプールも子ども達にすぐ囲まれました。



今回用意した魚は、コイ、フナ、ウグイ、ドジョウが4種、カジカ類が3種、尾数は少ないが、ヤツメウナギ、川カレイが加わりました。もちろんアンモニーテスもいます。モクズガニも入れました。スジエビ、ヨコエビも多数入れたのですが、目立ちません(ほとんどが割栗石の底に隠れていた)。また今回は、シジミ、カラス貝、カワニナ、おまけにカタツムリを割石のオブジェに加えました。

当日は、湿度の高い夏日となり、スタッフは日照った手で捕まれる魚達が、何とか一日保ってくれるよう水温調整や、バイガモの切れ葉取りなどに、気を配ったり、来場人数のうねりが過ぎるとプール周りに飛び散った水を拭き取るなど、あれこれ動き回っていました。今回は、ペットボトルの氷を40本ほど用意したので、何とか水温上昇を避けることができました。



午前中、元気のあったウグイは、よくプールからジャンプして飛び出し、周りの子ども達を驚かせていましたが、午後に入ると元気がなくなり、捕まれても段々抵抗しなくなっていました。

ヤツメウナギやドジョウは、中々しぶといです。ヌルヌルと握りをかわすのですが、段々握力が強まり、子どもの細い指が腹部に食い込んだりするのを見かけると思わず、「優しくね、優しくしてあげて」と声を掛ける一場面も。子どもは、本当に捕まえる





ことに夢中になるようで、同行する母親等から声を掛けられるまでプールから離れない子も多く、中に

は、あちこちの体験の合間に何度も訪れる子がいました。

また、ヤツメウナギのような大きく、ぬめりのある魚を敬遠することもなく、女の子も結構、触っていました。スタッフは、それぞれ交代で、水ふきとティッシュ配りを続けていました。パーティションには、6枚の研究成果ポスターを掲示していましたが、今回は、スタッフに質問する方も少なく、プール周辺の賑わいに比べ少し寂しく残念でした。

午後になってもプール周辺の子も達は途絶えることがなく、水が濁ってきて水替え出来ずにいますから、とうとうウグイなどの他に、今回はヤツメウナギも1匹死んでしまいました。何とかペットボトルの水も使い切り、16時まで保たすことができ、よかったよかった。

スタッフの皆様、ご苦労様でした。

(総務部 ながしままさゆき)